

## 1 はじめに

本年度は、公益財団法人への移行やキラリふじみ開館 10 周年を翌年度に控える大事な年でありました。

関係各位のご指導ご協力を賜り、公益財団法人移行認定申請は去る 3 月 1 日に手続きすることができました。

また、キラリふじみ 10 周年、富士見市市制施行 40 周年記念行事の計画実施に向け順調に進めることができました。

## 2 施設管理運営事業

当財団は、東日本大震災以降積極的に節電に取り組みつつ一層のサービスの向上と効率的な運営を心掛け、以下の 2 施設の管理運営を行ってまいりました。この節電の結果、震災後の一時期夜間休館を行った体育館のみならず両施設とも電気料金について余剰が発生し、その一部を精算いたしました。

### (1) 富士見市民文化会館キラリふじみ

富士見市民文化会館キラリふじみは指定管理第 2 期目を迎え、気持ちを新たに施設の維持管理及び運営に取り組んでまいりました。日常の取り組みに加え、8 月よりチケットの販売をインターネットからの予約やコンビニエンスストアでの引取りが可能なシステムを導入し、お客様が公演に足を運びやすい環境の整備を進めました。また、これまでは富士見市のホームページで情報を公開していましたが、11 月より財団独自にキラリふじみ専用のホームページを開設し最新の情報をスピーディーに皆様にお伝えできるようにしました。

これらの取り組みにより、2 月に実施した利用者アンケートでも施設のイメージは満足・ほぼ満足というよい回答が 83%と高い数字となっており、皆様に気持ち良く安心してご利用頂けていることがわかります。

また、今年度は東日本大震災の影響により外部照明の消灯や、共用スペースの間引き点灯など過去に例を見ないほどの節電に取り組みましたが、こうした事態にもかかわらず、2 月に実施したアンケートでは 90%のお客様に「ちょうど良い明るさである」とのご理解を頂くことができました。

### (2) 富士見市立市民総合体育館

通常どおりの開館であったキラリふじみとは違い、体育館は富士見市からの指示を受け前述のように夜間休館を実施し、その期間は平成 23 年 3 月 23 日から 4 月 17 日の 26 日間に及びました。

また、計画停電等にもお客様のご理解ご協力を得て何とか対処し乗り切ることができました。

利用料収入においては昨年度比 95 万円余のプラスとなりました。利用者数は昨年度比 34 千人余マイナスの 126,416 人となっておりますが、これはより実質的な利用者数の把握のために今年度から集計方法を変えたことが大きく影響しており、昨年度までの施設及び時間帯の延べ人数を計算する方法(例えば 100 人がメイン・サブを午前・午後利用すると 400 人とカウント)により集計すると全体で 159,489 人となり、結果 1,503 人の減少に停まっております。

施設面では、メインアリーナその他において雨漏りが発生しており、設置者に対応をお願いしているところですが、懸案であった空調設備の不具合については今秋に対応頂ける運びとなりました。

一方、体育機器は老朽化が進み、特にアスレチックジムの機器については修繕不可能となっているものもあり、対応について設置者と協議を続けております。

このような状況の中でも施設・設備の維持管理に努め、キラリふじみと同様に独自のホームページを立ち上げより早く便利な情報伝達を開始するなど、お客様に安心安全にご利用頂けるよう管理運営に当たってまいりました。

## 3 自主事業

当財団の設立目的である豊かな地域社会の形成と市民生活の充実にむけて、2 つの指定管理施設を拠点に、芸術文化とスポーツの分野において多彩な自主事業を展開しました。この活動を通じて多くの市民に芸術文化とスポーツに触れ合ってもらい、健康かつ文化的で、心豊かな市民生活、そして社会形成に寄与すべく努めてまいりました。

### (1) 芸術文化事業

富士見市民文化会館キラリふじみでの活動においては、オリジナリティ溢れる地域の文化芸術活動を振興する中核的な劇場としての機能と役割の確立、そして、制定を間近に控える(仮称)富士見市文化芸術振興条例の実践の場としての地位の確立を目標に掲げ、その達成に向け、芸術監督とアソシエイトアーティストを中心に、多角的かつバランスのとれた事業を展開しました。

1. ひとつづくり、2. まちづくり、3. 未来づくり、という活動理念を実現するために、公演(創造)事業、教育普及事業そして市民参加事業という3つのジャンルを柱に活動しました。

公演(創造)事業では、オリジナリティを持ったレパトリー作品の創作と上演や他地域の中核的な公立劇場と連携した公演、海外も含めた外部の優れた芸術団体による公演を上演するなど、地域の観客に幅広い鑑賞機会を提供しました。特に、今年度は4本の新作レパトリー作品を創作し、中でも10月に上演した芸術監督演出によるレパトリー新作『あなた自身のためのレッスン』は、平成24年度にキラリふじみを含む全国4か所の公立ホールでの上演(再演)が決まり、キラリふじみから発信される初のレパトリー作品となりました。こうした取り組みの結果、チケットの販売収入は前年度比150%を超える、14,803,800円とすることができました。

教育普及事業では、子どもや青少年を対象にしたワークショップやアウトリーチ活動に加え、昨年度から継続しているアトリエシリーズでは、アーティストや専門家を招いて、公演や展示だけでは観客が触れることができない、演劇、ダンス、音楽、美術などの創造に関する知識や方法論などを学び、考える場の創出に力を注ぎました。結果、開催ごとに新しい参加者が加わり、知識を深めるに止まらず、人と劇場の結びつきをもたらす、有意義な場とすることができました。

市民参加事業では、これまでこの分野の代表的なものであった、キラリ☆かげき団の活動に加え、舞踊、音楽、演劇といったジャンルで活動するアソシエイトアーティストが指導し、創作するといった新しいスタイルを持つ事業を展開し、市民の幅広い層の参加を得ることができました。

上記の一連の活動に対しては、文化庁(「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」)及び財団法人地域創造(地域の文化・芸術活動支援事業)から事業に対し助成を受けることができ、特に「優れた劇場・音楽堂からの創造発信事業」は、全国各地からの申請150件に対し81件が採択され、採択率54%と前回同様に厳しい条件をクリアしてのものです。昨年度に続いての国からの支援は、目標にも掲げた、地域の中核的な劇場に向けて、さらに前進することができた証しでもあると認識しております。

## (2) スポーツ事業

本年度も市内及び近隣在住の講師の方々との協働により事業を展開し、老若男女の多くのお客様にご参加頂きました。ただ、種目により反響は様々で、気功やヒップホップは昨年度に引き続き収支がマイナスであった他、数年にわたって好評で続けてきた健康体操教室は前期後期とも参加人数の減少が見られるなど、事業の編成に再考の余地があると考えます。個人開放デーは会場をサブアリーナからメインアリーナへ変更したこともありますが、昨年に比べ認知度が上がったのか参加人数にして約4倍の伸びと、大いに活用頂きました。

これらの反省等を含め、平成24年度から開始するキラリ☆スポーツカレッジを契機により充実した活力ある事業展開へと引き継ぎ、スポーツに親しみ、健康維持及び増進に一層寄与していけるよう努力してまいります。

なお、年度途中より実施したボールやラケット等の貸し出しはお客様には概ね好評を得ており、平成24年度からは正式にそれらの貸出事業を行う準備が整いました。

## 4 おわりに

東日本大震災を経験した私達はなんでもない一日がいかにか大切に改めて感じ、噛みしめました。当財団が運営する2つの施設は日常の場所であり、非日常の場所でもあります。普段の練習場所、気軽に立ち寄ってリラックスできる場所であり、日頃の練習成果を発揮する晴れの舞台、大いなる芸術文化に触れることのできる場所であり、競技会の会場であったりします。このような人間らしく生きる上でとても大切な場所を運営する当財団にとって、本年度はこのことを再確認した年であったように思います。

財団は、人に対しても作品に対しても、また施設や設備等に対しても、これまで以上にきめ細かな対応でそれに応えてまいりたいと思います。

今秋の公益財団法人キラリ財団としての新出発を目指し、一層精進してまいります。

結びに、関係各位のご指導とご協力に厚く感謝して平成23年度の事業報告といたします。

平成24年5月23日

財団法人富士見市施設管理公社  
理事長 林 繁 太 郎